

***zLog** for Windows*

ユーザーズマニュアル

Version 2.2

August 2003

1 はじめに

1.1 zLog とは何か

今やアマチュア無線のコンテストにおいてコンピュータを用いてリアルタイムにログ処理をするのは一部の熱心なコンテスターだけではなく、紙のログ、デュープチェックシートを触らずにコンテストを始めた初心者も少なくありません。コンテストログソフトを用いればデュープチェックはもちろん得点計算や交信レートなどの有用な情報がリアルタイムに得られてコンテスト戦術を考えるのに極めて役に立つだけでなく、コンテスト後の書類提出(ディスクや電子メールでのログ提出も一般的になってきました)やデータの分析、活用が格段に簡単になります。

1992 年春に私を含めた当時の東京大学アマチュア無線クラブのメンバーの一部で開発を開始した **zLog** は、PC-9801 シリーズ、後に DOS/V 互換機上で動く国内コンテストログとしておかげさまで幅広い支持を得るに至りました。1997 年からは Windows に対応した新しいコンテストログとして生まれ変わった後も数多くのコンテスト対応や、先進的なネットワーク機能などを取り込み常に進化してきました。現在では週末の自宅からのお気軽なコンテスト参加はもちろん、ネットワーク機能を駆使したレコードを狙ったマルチオペレータ運用まで十分対応できるコンテストログとしてお使いいただけます。

DOS 版時代から **zLog** はユーザーの皆さんからのフィードバックをもとにより良いソフトへと改良を続けてきました。この Windows 版でもユーザーの皆さんのフィードバックの大切さは変わりません。使っている途中こうしたらもっと使い易くなるのではないかと、こういう機能があったら便利なのに、といったご意見はぜひお聞かせいただければ今後のバージョンアップに大いに参考にさせていただきます。

1.2 zLog の特長

zLog for Windows (以下 **zLog**)の特長の一部を以下に記します。

- キーボード操作を主体としつつ、マウスによる直感的なユーザーインターフェースを取り入れ DOS 版からのヘビーユーザーはもちろん初心者にとっても使い方を覚えやすい。
- パラレルポート(プリンタポート)、シリアルポート、USB ポートのいずれかを利用した CW キーリング機能。
- シリアルポート経由でのリグコントロール機能。
- 国内コンテストはもとよりメジャーDX コンテストのサポート。

zlog for Windows User's Manual 2003

- インターネットの TELNET サーバーを含む PacketCluster™のフルサポート。
- マルチ Op/2TX 部門に完全対応した強力なネットワーク機能。(Z-Server)
- マイナーコンテストの多くも定義ファイルを用意することで対応可能。
- ZPRINT for Windows (JE2NHH 作)による高品質ログ、サマリーの印刷、そして e-mail 提出用ログの出力。
- ZLIST for Windows (JN2MRJ, JG5CBR 作)によるデータ解析、変換(Turbo HAMLOG[†])、デュープチェックシートファイルの作成。

[†] JG1MOU 浜田氏によるアマチュア無線ログソフト。DOS 版および Windows 版がある。

2 インストールおよび動作環境

配布されているファイルは LHA で圧縮されていますので、お使いのアーカイバソフトで解凍してください。解凍されたファイルはすべて同じフォルダの中に入れてそのままハードディスクのお好きな場所へ移動してください。ショートカットの作成、スタートメニューへの登録などは手動で行ってください。本マニュアルに掲載が間に合わなかった事項などは README.TXT に記載されることもありますので README.TXT をメモ帳などで開いてお読みください。一緒、もしくは別に配布されているユーティリティソフト ZPRINT for Windows や ZLIST for Windows も同じフォルダに解凍してください。

動作環境

Windows95/98/Me/NT/2000/XP。

画面解像度 800x600 以上。

PC-9800/9821 シリーズでは一部機能制限有り。

リグコントロール機能対応リグ

Kenwood:

TS-2000, TS-850, TS-690/450, TS-790

Yaesu:

MarkV/FT-1000MP, FT-1000MP, FT-1000, FT-100, FT-847, FT-920

ICOM:

IC-706, IC-706MkII, IC-706MkII-G, IC-721, IC-726, IC-731, IC-736, IC-746, IC-750,

IC-756, IC-756PRO, IC-760, IC-760PRO, IC-775, IC-780, IC-820, IC-821, IC-970,

IC-275, IC-375

JRC:

JST-145, JST-245

2.1 Windows95 ユーザー向けの注意事項

zLog for Windows version 2.01 以降から、Windows95 用の実行ファイルは他の OS 用とは異なるものになりました。これは他 OS における USB キーイングインターフェースのサポートに伴うものです (Windows95 版では USB キーイングインターフェースを利用できません)。他の OS 用の実行ファイルでは起動できませんので、必ず Windows95 専用版の実行ファイルを入手してください。

2.2 Windows98/Me ユーザー向けの注意事項

zLog for Windows version 2.01 以降から、Windows95 用の実行ファイルだけが他の OS 用とは異なるものになりました。これは USB キーイングインターフェースのサポートに伴うもので、Windows95 用の実行ファイルは他の OS でも起動できますが、USB キーイングインターフェースを使うことができません。メニューの Help | About で出てくるバージョン情報ダイアログに”w95”と出てくるのが Windows95 用です。USB キーイングインターフェースを使うには、必ず Windows98/Me/NT/2000/XP 用の実行ファイルを入手してください。

2.3 WindowsNT/2000/XP ユーザー向けの注意事項

WindowsNT/2000/XP においても、管理者権限で ZLOG.EXE を起動することによって問題なく利用することができます。ただし、パラレルポートを利用したキーイングインターフェースは利用できません。シリアルポート、または USB ポートを利用したキーイングインターフェースは利用できると思われれます。USB キーイングインターフェースを使うには、必ず Windows98/Me/NT/2000/XP 用の実行ファイルを入手してください。

3 基本的な使い方

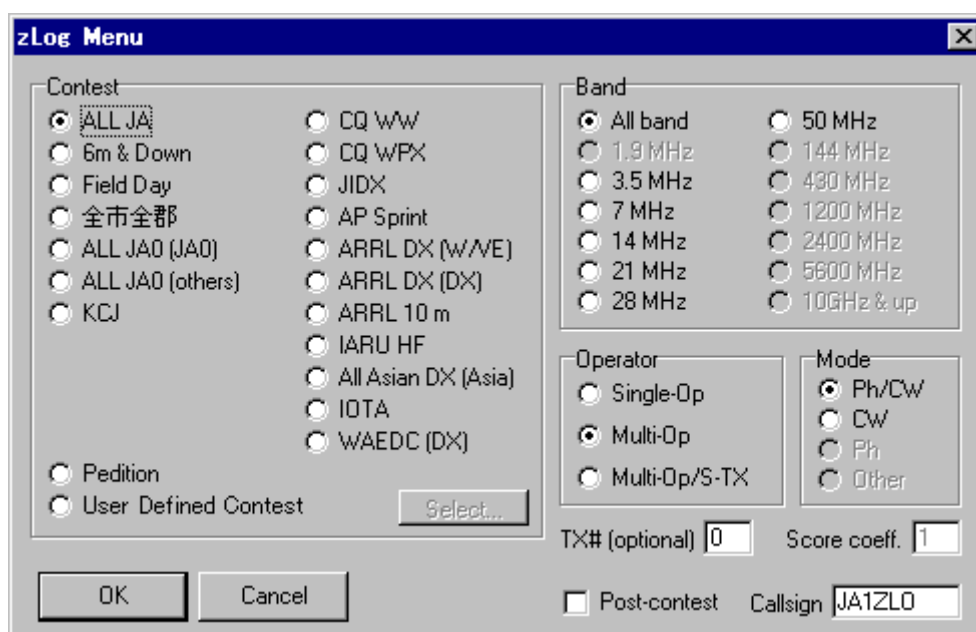
3.1 起動

エクスプローラを起動して **zLog** をインストールしたフォルダに移動してください。

zLog を起動するには ZLOG.EXE を起動します。ショートカットやスタートメニューにこのファイルをリンクしておくとう便利です。

3.2 メニュー

zLog を起動すると以下のようなメニュー画面が現れます。



Contest ボックス内ではこれから参加するコンテストをクリックします。DXPedition モードはマルチのチェックを行わないので、移動サービス、DX ペディション、QSO パーティーなどには便利です。User Defined Contest を選ぶと Select ボタンを押してコンテスト定義ファイルを読み込むことができます。付属のコンテスト定義ファイルもしくはご自分でカスタマイズした定義ファイルを読み込むことにより、Contest ボックス内に表示されていないコンテストに対応することができます。

Band ボックスではマルチバンドで参加する場合は All band を、シングルバンドで参加する場合はそのバンドをチェックします。

Operator ボックスでは参加部門によってシングルオペもしくはマルチオペ部門を選択します。

Mode ボックスでは参加部門によって Ph/CW (電信電話部門)、CW (電信部門)、Ph (電話部門)、Other (その他) の中から一つを選んでください。

マルチオペレータを選択した場合、送信機番号 (TX#) が入力可能になります。2TX 部門などで参加し、ログに送信機番号を記録する必要がある場合は適当な数字を入力してください。その他の場合は 0 のままで結構です。

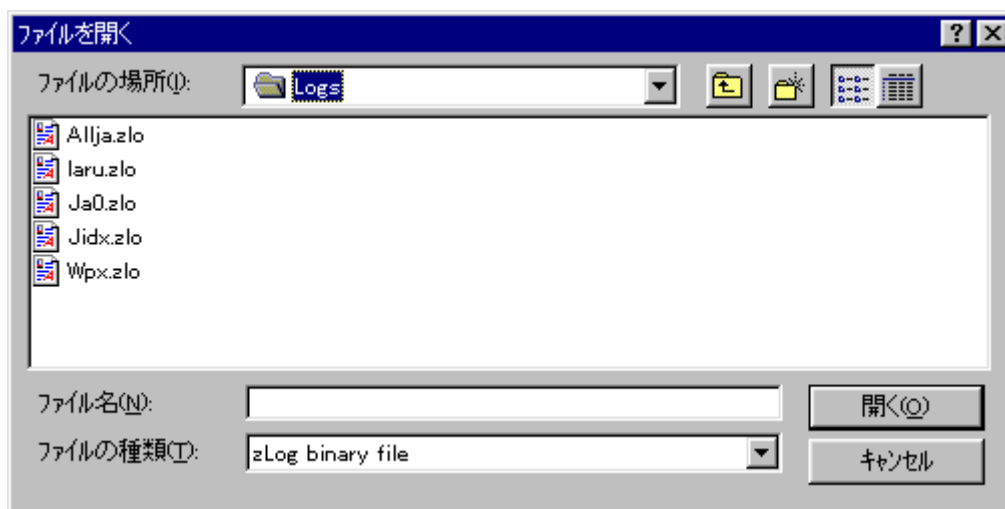
また Call sign 欄にご自分のコールサインを入力しておいてください。

以上の設定が完了したら OK ボタンを押します。以下の説明ではコールサイン以外の項目は初期値をそのまま残したと仮定して説明します。(ALL JA コンテスト)

ポストコンテストモード
メニュー画面の右下にある Post-contest チェックボックスをチェックすると、zLog はポストコンテストモードで起動されます。ポストコンテストモードとはコンテスト終了後に zLog に入力する場合のためのモードで、時間の自動更新がされないほか、手動で交信時刻が入力し易いように配慮されています。紙ログで参加したコンテストを後から入力する場合、zLog 入力の練習のためなどにお使いください。

3.3 ファイルを開く

メニュー画面の OK ボタンを押すと以下のようなファイル選択画面が現れます。ここでは既に存在するファイルに追加、編集をしたい場合該当するファイルを選択できます。ここで選択できるのは zLog バイナリファイルのみです。zLog バイナリファイルの拡張子としては ZLO が使われます。

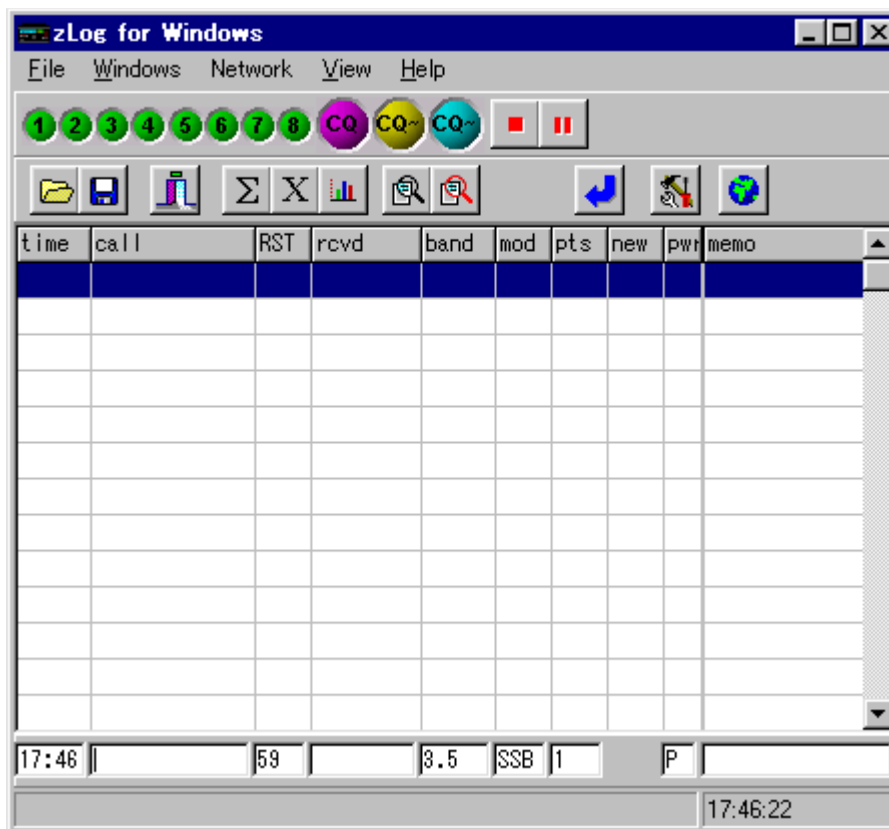


新たにファイルを作成する場合には、ファイル名に
適当な新しいファイル名を入力して「開く」ボタンを
押します。

3.4 メインウインドウ(入力ウインドウ)

さて、いよいよ QSO 入力開始です。画面には次の
ようなメイン入力ウインドウが表示されているはずです。実際のコンテストデータ入力はこのウインド
ウで行うほか、他のデータウインドウの表示やハードウェアのコントロールも行う名前どおり **zLog** の
中心となるウインドウです。

!!警告!!
ファイルを開くダイアログでキャンセルを押すと
zLog は自動的に一切ログをセーブしなくなりま
 す。PCがフリーズした場合や誤って**zLog**を終了さ
 せてしまった場合にはログが完全に失われます。そ
 のような危険を承知でない場合はここでキャンセル
 を押さないでください。



メインウインドウの各部分について簡単に説明します。

メインメニュー

メインメニューからは **zLog** のほとんどの操作を行うことができます。各メニュー項目の内容は随時本
マニュアルで触れていきます。

ツールバー

ツールバーではメインメニューで可能な操作のうち使用頻度の高いものをボタンとして配置してあります。各ボタンにマウスカーソルを合わせて、しばらくそのまま動かさずにいるとそのボタンの動作説明がヒントとして表示されます。ステータスバーにはマウスカーソルがボタンの上に来ると即時に動作説明が表示されます。ツールバーから可能な操作は(ボタン左側から)ファイルを開く、ファイル保存、**zLog** 終了、スコアウインドウ表示、マルチウインドウ表示、レート・グラフウインドウ表示、パーソナルチェックウインドウ表示、スーパーチェックウインドウ表示、**QSO** 確定、オプションウインドウ表示、およびパケットクラスタウインドウ表示です。

CW/Phツールバー

CW/Ph ツールバーでは CW キーイング機能およびボイスメモリ機能を使い易くするためのコンポーネントが配置されています。図に表示されているのは CW ツールバーですが、Ph ツールバーも右の 3 つのコンポーネントがないだけでほとんど同じ外見をしています。CW および Ph ツールバーは **zLog** の入力フィールドのモードと連動して自動的に切り替わります。ツールバーと同様、マウスカーソルを合わせることで各ボタン・コンポーネントの動作説明が表示されます。左の小さい緑のボタンを押すと CW もしくはボイスメモリの内容を送信します。これらの内容はファンクションキーを押しても同様に再生されます。そのとなりの 3 つの **CQ** ボタンは CW もしくはボイスメモリを通じて **CQ** を送信するためのボタンですが、それぞれ動作が微妙に異なります。左からそれぞれ、一回限りの **CQ**、**CQ** 連続送信 (ESC で中断)、**CQ** 連続送信 (ESC またはコールサイン欄に入力を始めた時点で中断)となっています。

ログウインドウ

ログウインドウには確定された **QSO** が交信時刻順に表示されます。

入力フィールド

入力フィールドでは交信データを入力します。

ステータスバー

ステータスバーにはマウスカーソル位置のコンポーネントのヒント、重複 **QSO** の内容、無効ナンバーの警告、ネットワーク経由のメッセージなど様々な情報を表示します。**zLog** を使っているときにはこの入力フィールドのすぐ下にあるステータスバーに注意を払ってください。

3.5 オプションウインドウ

QSO 入力を始める前にもう少し初期設定をしておく必要があります。**zLog** の設定のほとんどはメインメニューの **Windows | Options** もしくはツールバーのスピードボタンで開くことができるオプションウインドウで行います。オプションウインドウはさらにいくつかのページに分かれており、画面上部の

タブでそれぞれのページを選択できます。ここではまず **Categories** ページをクリックしてください。**Prov** および **City** 欄にそれぞれ都府県支庁ナンバー(東京:10)、**AJA** ナンバー(東京都目黒区:100110)を入力してください。これらの欄の内容は送信ナンバーに使われます。

マルチオペレータで参加する場合はここでオペレータ名も入力できます。オペレータ名は **ZLOG.OP** というファイルに保存されていますので、このファイルをコピーすれば他のバンドの **zLog** に転用できます。

オプションウィンドウの設定内容を保存するため **Save** ボタンを押してください。**OK** ボタンを押してウィンドウを閉じてください。

3.6 QSO 入力

まずコールサインから入力しましょう。コールサインフィールドにカーソルを合わせ、適当なコールサインを入力してください。入力できたらスペースバーを押してください。カーソルがナンバーフィールドに移るはずですが、ここで有効なコンテストナンバーを入力してください。



モード、バンド、送信パワーの変更は各欄を右クリックして表示されるメニューを使って変更します。またキーボードではそれぞれ **SHIFT+M**、**SHIFT+B**、**SHIFT+P** でも変更できます。送信 **RST** は直接クリックして編集するか、**SHIFT+R**、**SHIFT+S** で変更できます。

スペースバーを押すことによりコールサインフィールドとナンバーフィールドを交互に行き来します。交信時刻欄は現在時刻を示すように即座に更新されます。

ポストコンテストモードでは時刻は更新されません。時刻の変更は、時刻欄に直接入力する、**Ctrl+O**、**Ctrl+P** を使って分単位で戻す／進める、**SHIFT+T** で現在時刻にセットする、のいずれかの方法で可能です。また、日付の入力を必要とするときは、時刻欄をダブルクリックすると日付欄に表示が変わりますのでそこで直接日付を入力してください。再びダブルクリックすると時刻欄に戻ります。

交信情報を入力したら **Enter** キーを押して確定します。確定された **QSO** はログウィンドウに表示され **QSO** 入力フィールドからはコールサインとナンバーがクリアされます。

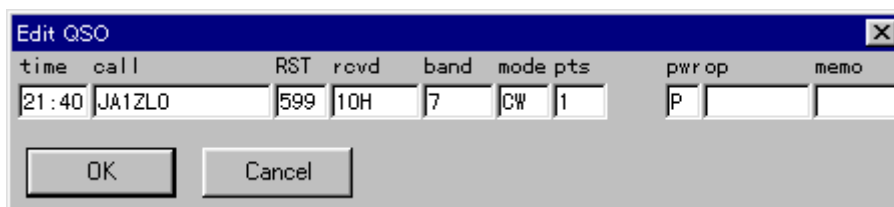
次に既に確定した交信局のコールサインをもう一度入力してください。そしてスペースバーを押してみてください。スペースバーを押すと、カーソルはナンバー入力欄に移動せず、コールサインがすべて選択され、ステータスバーにその局と最初に交信したときのデータが赤で表示されます。**zLog**では重複 QSO (デュープ) は初期設定では入力できません。したがって相手局に既に交信済みということを伝え、別の局からのコールを待ちます。重複 QSO をログに残したい場合、Options ウィンドウの Preferences ページで Allow to log dupes チェックボックスをチェックしてください。この場合重複 QSO は 0 点として記録されます。

入力フィールドおよびログウィンドウのフォントの大きさはメニューの View | Increase Font Size または Ctrl+S で 13 段階変更できます。また、入力フィールドとログウィンドウの高さも変更できます。それには入力フィールドで「, HEIGHT40」などと入力して Enter を押します (数字の部分は 18 から 40 まで)。設定したフォントサイズとフィールドの高さは終了時に自動的に保存されます。

Alt+C、Alt+N、Alt+M、Alt+R は各々コールサイン、ナンバー、メモ、RST フィールドへのショートカットキーとして利用できます。

3.7 既入力 QSO の編集

ログウィンドウに表示されている QSO の内容を編集するにはまず目的の QSO を選択します。選択する方法は 2 つあります。一つは目的の QSO をマウスでクリックする方法です。もう一つは入力フィールドから ↑ キーを押してログウィンドウに移る方法です。いずれの方法でも選択された QSO は反転表示されます。反転表示はカーソルキーのほか、Ctrl+P と - キーでも上に動かすことができ、Ctrl+N と + キーでも下に動かすことができます。次に選択された QSO をダブルクリック、もしくは Enter キーを押すことにより QSO 編集ダイアログが表示されます。



このダイアログ中の情報を修正して OK ボタンを押すか、Enter キーを押せば完了です。

3.8 既入力 QSO の削除および新規挿入

ログウィンドウに表示された QSO を削除するには QSO を選択した状態で Delete を押すか、右クリックして表示されるポップアップメニューから Delete QSO を選択します。

まとめて変更

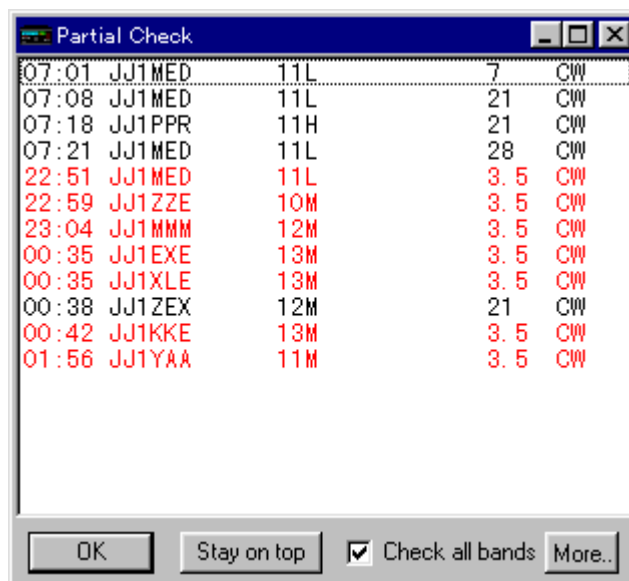
バンド変更やオペレータ変更した後そのまま忘れて何局か入力してしまった、ということはよくあります。このような場合 **zLog** では変更したい QSO をまとめて選択して右クリックするとポップアップメニューが表示され、バンド、オペレータ、モード、送信パワーのいずれかを一括変更することができます。コンテスト後は ZLIST の編集機能を使った方が便利なこともあります。

ある位置に QSO を挿入したい場合は挿入したい場所の 1 つ後になる QSO を選択し、Insert を押すか、右クリックしてポップアップメニューから Insert QSO を選択します。また単に入力フィールドで通常どおりに入力し(時間は直接入力)メインメニューから File | Sort by Time を選んで時間順にソートするという方法もあります。

3.9 パーシャルチェック

コンピューターログが威力を発揮する機能の一つにパーシャルチェックがあります。この機能はコールサインやナンバーの一部をすべての既入力 QSO に対して部分検索する機能です。他のバンドで交信した局の情報や呼びに回るときのニューマルチ確認などでコンテスト中に何度も使用する機能となるはずですが、**zLog** ではコールサインフィールドにいるときはコールサインに対して、ナンバーフィールドにいるときはナンバーに対して検索を行います。たとえばログの中から JA1 を含む局をリストアップしたいとします。まずコールサイン入力欄に JA1 と入力してください。そして F10 を押すと次のようなパーシャルチェックウィンドウが表示されます。現在のバンドで交信した局は紫で表示されます。

ここで目的の局が確認できたら Enter または OK ボタンを押して元の入力フィールドに戻ることができます。ESC もしくはメインウィンドウをクリックしてパーシャルチェックウィンドウを開いたまま入力フィールドに戻った場合はコールサインフィールドに連動して検索結果がリアルタイムにアップデートされます。Stay on top ボタンを



押しておけば常にパーシャルチェックウインドウを前面に表示させておくことができます。また Check all bands を Off にしておけば検索は現在のバンドに対してのみ行われます。また右下の More... ボタンを押すと、表示 QSO のソート方法や表示最大局数を設定できます。

同様な検索を現在のコンテストログに対してではなく過去のコンテストの情報に対して行うスーパーチェック機能も存在します。この機能には Alt+E もしくは Ctrl+F10 が割り当てられています。ZLIST for Windows を使えば、過去のコンテストデータなどから専用のスーパーチェックデータも作成できます。

パーシャルチェックおよびスーパーチェックのコールサイン検索にはワイルドカードが使用できます。たとえばコールサイン入力欄に「JA.Z」と入力して検索を行うと、JA1ZLO、JA2ZLO、JA1ZZZ などがヒットします。ヒットした検索結果は Ctrl+I でコールサイン入力欄に取り込むことができます。取り込まれるコールサインは一番上に表示されているコールサインで、パーシャルチェックとスーパーチェック両方がヒットしている場合、パーシャルチェックの検索結果が優先して取り込まれます。また検索結果の任意の行をダブルクリックしてもコールサインが取り込まれます。

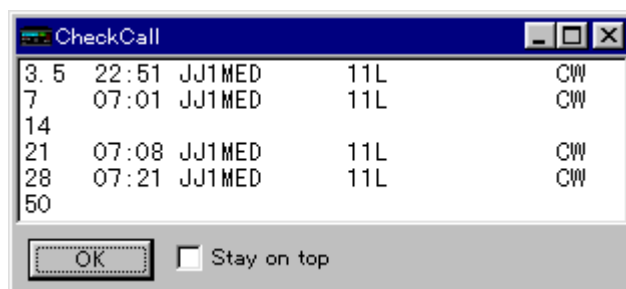
3.10 スコアおよびマルチウインドウ

コンテストログというからには最低でもリアルタイムに得点計算やマルチの処理を行ってあげなければいけません。zLog では得点情報およびマルチ情報それぞれに専用のウインドウが用意されていますので必要に応じて片方もしくは両方をコンテスト中に表示させておくことができます。それぞれメインメニューの中から Windows|Score、Windows|Multipliers を選んで表示させてください。ツールバーにも表示ボタンが用意されています。Ph/CW の両モードがあるコンテストでは、スコアウインドウに CW 交信数と CW 交信率(%)が表示できます。ユーザー定義コンテストモードでは、マルチウインドウには QRV 可能なバンドについてのみデータが表示されます。

3.11 その他のウインドウ

Check Call ウインドウ

メインメニュー Windows|Check Call で表示されるウインドウはコールサイン入力欄に入力されている局と他のバンドでの交信状況を表示します。マルチバンドで参加している場合、他バンドでの交信を要請するときなどに便利です。



Check Multi / Check Country / Check Zone ウィンドウ

メインメニュー Windows | Check Multi で、Check Call ウィンドウと似たような構成のウィンドウを表示します。ここでは、コールサイン入力欄に入力されている局のマルチプライヤーについて、他のバンドでの取得状況を時間、コールサインおよびモードとともに表示します。マルチがカントリーマルチとゾーンマルチの 2 系統あるコンテストでは (CQWW など)、Check Multi のかわりに Check Country と Check Zone ウィンドウが存在します。

QSO Rate ウィンドウ

お馴染みの交信レートを表示するウィンドウですが、DOS 版とは異なり過去 10 もしくは 100 局分の QSO についてリアルタイムにレートを計算します。したがって交信をしないとどんどんレートが下がっていきますのでストレスが溜まらないようにご注意ください。また交信局数の時間変化のグラフも表示されます。

3.12 提出書類の作成

近年は E-mail でログを提出できるコンテストも増えてきましたが、これらの多くは **zLog** が出力するテキストファイルをそのまま受け付けてくれます。†テキストファイルを作成するにはメニューから File | Export を選び、表示されるダイアログの下部にあるドロップダウンリストで出力するファイルの種類を選びます。選べる形式は 4 種類です。

- DOS 版互換の形式 (.txt ファイル)。この形式しか扱えない外部のユーティリティソフトを使いたい場合にはこれを選んでください。ただし、2 系統目のマルチや交信年についての情報が失われることとなります。
- Windows 版固有の形式 (.all ファイル)。
- 送信機別の形式 (.tx ファイル)。ファイルの形式は .all ファイルと同じですが、送信機番号ごとに 1 つのファイルとして出力されます。
- ADIF 形式 (.adi ファイル)。ただし **zLog** では送信ナンバーは出力されず、また受信ナンバーも CQWW などフィールド定義が明らかなもの以外は qth フィールドに出力されます。

どの形式が受け付けられるのか、詳しくは各コンテストのルールを参照するか主催者に確認してください。**zLog** 開発者および関係者はこれらのファイルを提出して特定のコンテストで受理されなかったり失格になったりしても責任を負いません。

CQWXP コンテストモードでは File | Prefix List でプリフィックスリストファイルが作成できます。また File | Summary File により得点結果などの簡単なサマリーファイル (.zsm ファイル) を出力できます。

† **zLog** の出力ファイルをそのまま受け付けてくれるかどうかはコンテスト主催者に確認してください。

JARL 形式の E-mail 用や紙用のログを出力するには ZPRINT for Windows (JE2NHH 作) という専用のソフトウェアを起動します。ZPRINT が **zLog** と同じフォルダに存在する場合は File | Print Log で起動することができます。

複数のログファイルをマージしたい場合には、File | Merge File で可能です。

デュープチェックシートの提出が必要な場合、File | Create Dupe Check Sheet を選ぶと ZLIST for Windows (JN2MRJ, JG5CBR 作) が起動されますのでその中からデュープチェックシート用のファイルを出力することができます。ZLIST も **zLog** と同じフォルダに存在している必要があります。

3.13 終了

終了するにはメインメニューから File | Exit を選んでください。データが変更されている場合は保存するかどうか聞かれます。

以上でコンテストに必要な一番基本的な機能を説明しました。しかし **zLog** の機能はこれだけに留まりません。**zLog** の基本操作を十分に身に付けたら応用編でご紹介するさまざまな機能をお試しになり、より高度なコンテスト戦略に活かされることを望みます。

4 応用編—zLog を使いこなすために—

4.1 操作体系

zLog では、通常の文字入力は単にそのキーを普通に押します。

またよく使う基本操作のほとんどはキーボードコマンドに割り当てられています。これは特殊キーや、SHIFT や Alt キーとの組み合わせによる操作です。DOS 版と違って CAPS キーをロックしておく必要はありません。

また、キーボードコマンドだけでは収まりきらなくなってきたため、zLog では文字列によるコマンド入力を使う機能があります。コマンドは「,」(カンマ)で始まる文字列で、これを入力するのは以下のいずれかの方法で可能です。

- コールサイン入力欄に直接入力して Enter を押す。
- Windows | Console または Alt+Q で表示される専用のコマンド入力ウインドウに入力し、Enter を押す。

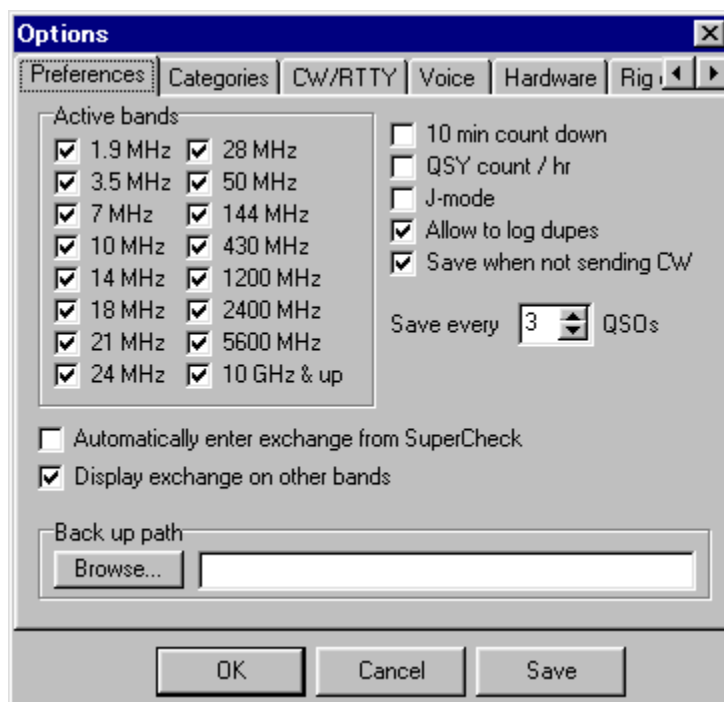
後者の場合始めの「,」を省略できます。以降、このような文字列によるコマンド入力を使う機能は「,CQ」コマンドのようにコマンド文字列をカギカッコでくくって表記します。

4.2 オプション設定

メインメニューの Windows | Options を選ぶと表示されるオプションウインドウでは zLog のほとんどの設定を変更、保存できます。オプションウインドウは以下の 7 つのページから構成されています。

Preferences

Active bands では運用可能なバンドをチェックします。チェックされていないバンドは SHIFT+B やメニューなどで選択されないようになります。



Allow to log dupes をチェックしていると重複 QSO も DUPE とマークされた上でログに残すことができます。

Save every ... に設定している QSO ごとに自動的にログデータを保存します。

Back up path には自動保存と同時に同じファイルを別のパス(ディスク)に保存したい場合、保存先のパスを指定します。

Display exchange on other bands をチェックするとコールサインを入力後スペースバーでナンバー入力欄に移る際、異なるバンドで既に交信している場合はそのときに受信したナンバーを自動的に表示します。シリアルナンバーなどナンバーがバンドによって異なるコンテストではこの機能を不動作にしておくことをお勧めします。

Save when not sending CW をチェックすると、CW を送信していないときにだけセーブします。ハードディスクが動作すると CW の符号が乱れるという症状が発生する場合にはチェックしておく症状が軽減されるかもしれません。

J-mode をチェックするとコールサイン入力欄に「7」以外の文字を最初に入力した場合、自動的に「J」を1文字目に挿入します。

10 min count down をチェックするといわゆる「10分間ルール」に対応します。バンド変更後初めての QSO が確定後、10分間のカウントダウンタイマーがステータスバー右下に表示されます。カウントが終了すると[QSY OK]という表示に変わります。カウントが終了していない状態で QSY しようとするとステータスバーに警告が表示されます。

QSY count/hr は、ARRL DX のように、毎時 0 分から 59 分までの QSY 回数を制限するようなルールに対応するためのもので、ステータスバー右に今まで QSY した回数を表示できます。ただし、10分カウントダウンタイマーと同時に使用することはできません。

Automatically enter exchange from SuperCheck をチェックすると、コールサイン入力欄にコールサインを入力してスペースバーを押下したとき、パーシャルチェックだけでなく、スーパーチェックのヒット結果からも受信ナンバーを自動的に取り込むようになります。ただし、パーシャルチェックがヒットする場合にはそちらを優先します。

Categories

Operator ではマルチオペのオペレーターリストを作成できます。リストの内容は ZLOG.OP というファイルに保存されるのでこのファイルを他の *zLog* でも使用できます。

Prov/State(\$V) には都府県支庁ナンバーもしくは KCJ コードや州名を入力してください。CW 送信時に利用されます。

City(\$Q) には AJA ナンバーを入力してください。**CQ Zone**、**ITU Zone** も適当な文字列を入力してください。†

Sent には RST を除いたコンテストの送信ナンバーを入力します。ほとんどのコンテストの場合この

† JA の CQ ゾーンは 25、ITU ゾーンは 45。

内容は自動的に設定され、変更する必要はありません。

Multi Station チェックボックスは M/S のためのもので、ここにチェックを入れると Multi Station として、さもなくば Running Station としての動作をします。これは「,MULTI」および「,RUN」コマンドでも変更できるので、あまり使うことはないでしょう。

CW/RTTY

Messages には CW および RTTY 送信メモリの内容を設定します。詳しくは次節の **CW キーイング機能** をご覧ください。

CQ repeat interval には CQ 連続送信時の間隔を入力してください。

Speed および **Weight** はそれぞれ送信速度およびウェイトの初期値を設定します。

Paddle enabled は CW キーイングインターフェースにパドルを接続している場合にチェックします。パドルを接続せずに、ここをチェックしておくことと短点や長点が連続して鳴り続けることがあります。

Paddle reverse をチェックするとパドルの長短点を反転することができます。

Side tone は PC の内蔵スピーカーによるサイドトーンを使用するかどうかを設定します。

Que messages をチェックすると連続してファンクションキーを押して送信した場合、最初に押したキーの内容をすべて送信してから次のキーの内容を送信します。チェックしていない場合はキーを押した瞬間に送信中のメッセージは破棄され、新しく押されたキーの内容を送信し始めます。

Tone pitch は PC によるサイドトーンの周波数を指定します。

CQ max には連続 CQ 送信の最大回数を入力します。

Abbreviation(019) には、\$Q や \$S のマクロ内容の数字 (0,1,9) をどのように略するかを指定します。

Switch TAB/; with CW bank をチェックしておくことと、TAB や ;、↓ を押したときの送信文字列がバンクの設定に応じて切り替わります (通常は A/B バンクの選択に関わらず A バンクの内容を送信)。

Voice

Messages にはフォーンモード時にファンクションキーを押した際に再生される音声ファイル (WAV ファイル) を指定します。各ファンクションキー欄の右の **Select** ボタンを押して該当する WAV ファイルを選んでください。memo の内容は特に意味は持ちませんが、ツールバーのボタン上にマウスカーソルを持っていった際にヒントとしてこの memo の内容が表示されます。

Hardware

PacketCluster ではパケットクラスタを利用する場合の接続方法を指定します。COM ポートを選んだ場合 (パケット通信) と成る **COM port settings** ボタンを押して、通信速度などの設定を行ってください。TELNET を選んだ場合 (インターネット上のパケットクラスタ TELNET サーバー) **TELNET settings** ボタンを押してホスト名などの設定を行ってください。

Z-link では *zLog* 同士のネットワークを組む方法を指定します。ただし現在では TELNET(TCP/IP

ネットワーク上の Z-Server を介した接続)のみに対応しています。となりのボタンを押して設定を行ってください。

Rig 1 / Rig 2 では、リグコントロールを利用する場合の接続方法を指定します。どの COM ポートを使うかを左側のリストで選択し、リグの機種を右側のリストで選んでください。一番右の **XVT** はトランスバータを接続する際にチェックする必要があるかもしれません。ここをチェックすると、リグ側から送ってくる周波数情報と実際の周波数とのずれの値を設定できます。

CW port では CW 出力ポートを設定します[†]。

CW PTT control ではリニアアンプ用などの PTT 制御ラインの設定を行います。PTT 制御機能を利用するには **Enable PTT control** をチェックしてください。 **Before TX...** および **After TX** 欄にはそれぞれ送信前後の PTT 制御の遅延時間をミリ秒単位で指定します。

Rig Control

Band Data 欄では、CW 出力ポートのデータピン(DATA4~DATA7)に出力する 4 ビットのバンドデータとして、どちらのリグのバンドを出力するかを選択します。 **Active Band** を選ぶと、**zLog** で運用中のバンドを出力します。

Clear RIT after each QSO をチェックすると、QSO を入力して確定するたびに RIT を自動的にクリアします。

Do not allow two rigs to be on same band をチェックすると、2 つのリグを接続しているとき、SHIFT+B でそれら 2 つのリグが同時に同じバンドに設定されないようにします。

Record rig frequency in memo をチェックすると、ログのメモ欄にリグの周波数を記録するようになります。

Automatically create band scope をチェックすると、QSO を入力して確定するたびに自動的にバンドマップにその QSO を追加します。

Send current freq every... の欄では、Z-Server を介してネットワークに接続されている場合に自分の運用周波数とモードを自動的に送る間隔を設定します。リグコントロール機能が働いている場合にのみ有効です。0 に設定すると、自動的に送らないようになります。

Misc

Start search after... の欄では、スーパーチェックの検索を開始するまでの文字数を指定します。1 文字入力したところで検索を始めると大量にヒットするので表示がもたつくという場合には、2 文字目や 3 文字目まで入力したところで検索を開始するように設定するとよいでしょう。

Max super check search の欄では、スーパーチェックの検索最大ヒット数を指定します。すなわ

[†] PC-9801 および PC-9821 シリーズでは、ZLOG.INI ファイルを直接エディタなどで編集し、その中の UseCWPort 変数をパラレルポートの I/O ポートアドレスに 10 進数で設定する必要があります。通常は 64(40h)。IBM 互換機でもこの変数を用いて I/O ポートを強制的に指定可能です。

ち、ここで指定した数だけヒットした場合、それ以上の検索を打ち切ります。こちらも表示のもたつきが見られる場合に小さめに設定してみてください。

Delete band scope data after...の部分では、バンドスコープ上に現れたコールサインを自動的に消去するまでの時間を指定します。

Delete spot data after...の部分では、パケットクラスタで得たスポット情報を自動的に消去するまでの時間を指定します。

Display date in partial check をチェックすると、パーシャルチェックウィンドウの表示や、デュープチェック時のステータスバーの表示に、時刻だけでなく日付も表示するようになります。24 時間を超えるコンテストで使うとよいでしょう。

Update using thread をチェックすると、QSO 修正後などのスコアの再計算を別スレッドで行います。このとき再計算はバックグラウンドで行われるので、修正後に待たされることなく即座にユーザーに制御が戻ります。

4.3 CW キーイング機能

設定

CW キーイング機能にはパラレルポート、シリアルポート、USB ポートのいずれかを利用します。Options ウィンドウの Hardware ページの CW port ボックスで使用するポートを選択してください。またパドルを接続する場合は Paddle enabled チェックボックスをチェックしてください。その後設定が保存されるように Save ボタンを押せば設定は終了です。

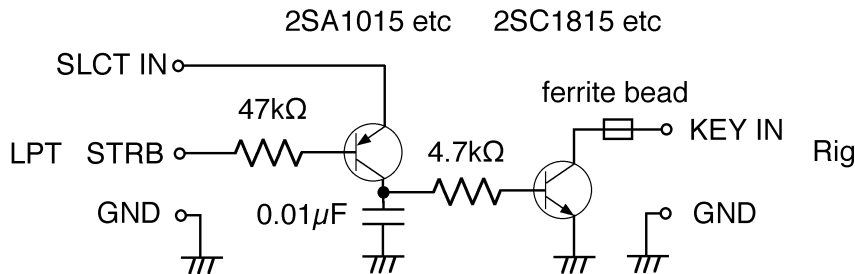
CW インターフェース回路

CW インターフェースは 2 つの部分で構成されます。1 つは符号の出力用で、符号に合わせてスイッチングする各ポートの端子の電圧をリグの電鍵入力端子に接続する部分です。もう 1 つはパドルの ON/OFF を PC に入力する部分 (必須ではありません) です。

パラレルポートインターフェース

ここではパラレルポートを利用する場合のインターフェース回路例を紹介します。**zLog** のパラレルポートキーイング機能は、PC の I/O ポートを直接制御しています。従って、USB 接続のパラレルポートなどでは動作しません。また、Windows NT/2000/XP でも利用できません。

IBM PC/AT 互換機 平行ポート CW インターフェース例

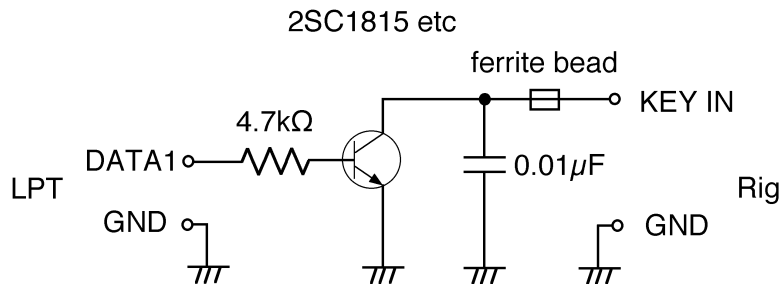


参考：IBM PC/AT 互換機 平行ポートピン配置(DSUB-25ピン)

SLCT IN	17
STRB	1
GND	18-25
AUTO FD	14
SEL	13
PE	12

PTT 制御信号出力
 平行ポートの DATA4 (DATA1 から DATA8 までの中の) に PTT 制御信号を出力します。回路は PC9801 用の回路例と同様のもの動作するでしょう。

NEC PC9801/9821 シリーズ 平行ポート CW インターフェース例



シリアルポートインターフェース

右の表のように信号が出ていますので、PC-98x1 平行ポート用のインターフェースと同様の回路で動作するでしょう。こちらは、平行ポートとは違って Windows の機能を利用して制御しているため、市販の USB 接続のシリアルポートインターフェースでも動作する可能性があります。

キーイング出力	DTR
PTT 制御出力	RTS

USB インターフェース

USB 接続専用のキーイングインターフェースとして、USBIF4CW (<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~nksg/ham/usbif4cw/>) に対応しています。このインターフェースを利用する場合に限り、CW port として USB を設定してください。

メモリ機能

メモリ機能はメモリキーヤーのようにあらかじめ設定した内容を送信する機能です。メモリは A、B の

2つのバンクかならなり、それぞれ8つのメッセージを保存できます。それぞれの内容はオプションウインドウのCW/RTTYページで設定できます。メモリの内容はCWツールバーの緑色のボタンもしくはF1～F8キーを押すことで送信されます。メモリには普通の文字列の他に以下のようなマクロが使用できます。マクロは送信直前に適切な文字列に変換されます。バンクはSHIFT+Fで切り替わります。またSHIFT+ファンクションキーで現在選択されていないバンクの内容が送信されます。

マクロ	内容
\$C	コールサイン入力欄の内容
\$B	\$Cとほぼ同じだが、\$Cのように送信中に修正すると修正内容が反映されるのとは異なり、ボタンを押した瞬間のコールサイン入力欄の内容に置き換わる
\$L	最後に確定したQSOのコールサイン
\$E	TABキーでコールサインの送信後にコールサイン入力欄を変更した場合のみ\$Cと同じに、さもなくば空に展開される(いわゆるオートコレクト)。また、もしコールサイン欄が空欄ならば\$Lと同じになる
\$M	自局のコールサイン
\$P	送信パワーコード(P, L, M, H)
\$X	送信コンテストナンバー
\$F	受信コンテストナンバー
\$R	送信RST
\$S	シリアルナンバー
\$Q	QTHコード

たとえば\$C TUというメモリは送信時に[相手のコールサイン] TUと変換されて送信されます。

バンクAの8つあるメモリのうち5個は特定の状況で送信するために予約されていますのでその内容はある程度制限されます。

メモリ	予約動作
F1	CQ ボタン、SHIFT+Z、Ctrl+Z を押したとき。CQ の内容を設定。
F2	TAB を押したとき。相手のコールサイン+交換ナンバー。
F3	↓、+、;を押したとき。TU+自局のコールサイン。
F4	TAB が押され、かつ入力局がデュープの場合。
F5	↓、+、;、Enter が押され、かつナンバー欄が有効なコンテストナンバーでない場合。

したがってAバンクのうち自由に内容を設定できるメモリはF6、F7、F8の3つです[†]。デフォルトでは上記の予約動作はSHIFT+Fによるバンクの選択状態に関わらずAバンクの内容を送信します

[†] ZLOG.INIの[CW]セクション中のF11、F12、F11B、F12B変数を直接編集することにより、F11、

ので B バンクの内容はすべて自由に使用できます。

ただし、Options ウィンドウの CW/RTTY ページ中の **Switch TAB;/ with CW bank** をチェックしておくとし F2/F3 の送信内容についてはバンクの選択状態にしたがって送信します。たとえば B バンクの F2 に \$M、F3 に TU と設定しておけば、呼び回りのときに B バンクを選択しておいて TAB で自局のコールサインを送って呼び、↓や;で TU を送って確定する、という CQ 時と同じ操作でのオペレートができます。

なお、メモリの CQ2、CQ3 に別のパターンの CQ を登録しておくとし 5 回目からの CQ 連続送信では 3 つのパターンからランダムに送信されます。

CQ を出してランニングをしていると仮定した場合操作の流れは以下のようになります。

1. Ctrl+Z で CQ 連続送信をする。
2. 呼ばれたらコールサイン入力を始める。(CQ 連続送信が解除される)
3. 相手が呼び終わったら TAB を押す。
4. まだコールサインが入力途中の場合は入力を完了する。
5. 相手のコールサインを打ち終わると自動的にフォーカスがナンバー入力フィールドに移る。
6. 相手のナンバーを受信してナンバー入力フィールドに入力。
7. 相手が送信を終えたら ↓ (もしくは+, ;) を押す。
8. Ctrl+Z で CQ を出す。

Ctrl+Z の他に SHIFT+Z でも CQ 連続送信が行えます。Ctrl+Z との違いは ESC を押さないと CQ 送信が解除されないという点です。CQ 送信中にログウィンドウで編集操作を行いたいときなどは SHIFT+Z をお使いください。送信は ESC によりいつでも中止できます。また CW ツールバーのストップボタンでも中止できます。

CW の諸設定のうち送信速度は CW ツールバー上のスライドバーもしくは SHIFT+Y、SHIFT+U でリアルタイムに調節できます。サイドトーンの On/Off もツールバー上のボタンで行えます。ウエイト、音程、連続 CQ 最大回数、数字の省略方法などその他の CW 関係の設定は Options ウィンドウの CW ページで行えます。

F12 にもメモリを割り当てることができます。

CW 符号の設定

CW 符号の細かい設定をする方法がいくつか用意されています。コールサインやリグなどの機器などによって符号を微調整することにより応答率を改善できるかもしれません。

短点ブランクの挿入

CW メッセージに「_」(アンダースコア)を挿入することにより文字間に短点一つ分のブランクが挿入できます。例: DE JE6MI_I

速度の変更

CW メッセージ中に $\$+n$ もしくは $\$-n$ (n は正数)を埋め込むことによりメッセージ途中で送信速度を上げたり下げたりできます。同じメッセージ中では必ず元の速度に戻るよう気をつけてください。

例: CQ TEST DE $\$-3$ JJ1MED $\$+3$ TEST

CW 文字間隔の調節

ZLOG.INI 内 [CW] セクション下の以下の変数を直接書き換えることにより、CW 文字間の間隔を一律もしくは一部個別に調節できます。

SpaceFactor=100

EISpaceFactor=100

前者はデフォルトの CW 文字間隔を 100 として%で指定してください。後者はその上さらに「E」および「I」の後に置く文字間隔の係数を%で指定できます。

CW キーボードモード

CW キーボードモードではキーボードから入力された内容をそのまま送信することができます。ツールバーのボタンもしくは Alt+K を押すことによりキーボードウィンドウが表示されます。まだ送信されていない文字は BS でキャンセルすることも可能です。ESC で入力画面に戻ることができます。

特殊符号		
・――・ ([AR])などの特殊符号もメモおよびキーボードモードで扱うことができます。		
符号	メモリ	キーボード
・――・	[AR]	SHIFT+A
――――	[BT]	—
――――	[KN]	SHIFT+K
――――	[SK]	SHIFT+S
――――	[BK]	SHIFT+B

CW に関するその他の機能

「, TUNE」コマンドまたは Ctrl+T で連続送信状態になります。ESC で解除可能です。また、キーイング機能を完全に無効にすることができます。ZLOG.EXE 起動時のコマンドラインオプションとして「/NOBGK」を指定する、SHIFT キーを押しながら ZLOG.EXE を起動する、起動後に「, CWOFF」コマンドを入力する、の 3 種類の方法でできます。無効にしてあるキーイング機能をあとから有効にするには、「, CWON」コマンドを入力します。

4.4 ボイスメモリ機能

CW キーイング機能に対してフォーンモードでは簡単なボイスメモリ機能が用意されています。モードが SSB、FM、AM に切り替わると CW ツールバーに変わって Ph ツールバーが表示されます。見かけは CW ツールバーとほとんど変わらず、また使い方もよく似ています。ボイスメモリにはあらかじめ Windows 付属のサウンドレコーダーなどで作成した WAV ファイルのファイル名をオプションウィンドウ、Voice ページで指定しておきます。後は Ph ツールバー上のボタン、もしくは F1～F8 によりそのファイルが再生されます。CQ 連続送信は CW と同じく Ctrl+Z、SHIFT+Z で F1 の内容を再生できます(ただし CQ2、CQ3 の設定は無視されます)。また、TAB キーで F2 の内容が、↓、;、+で F3 の内容が、そしてデュープ時には F4 の内容が再生されるのも CW と同様です。

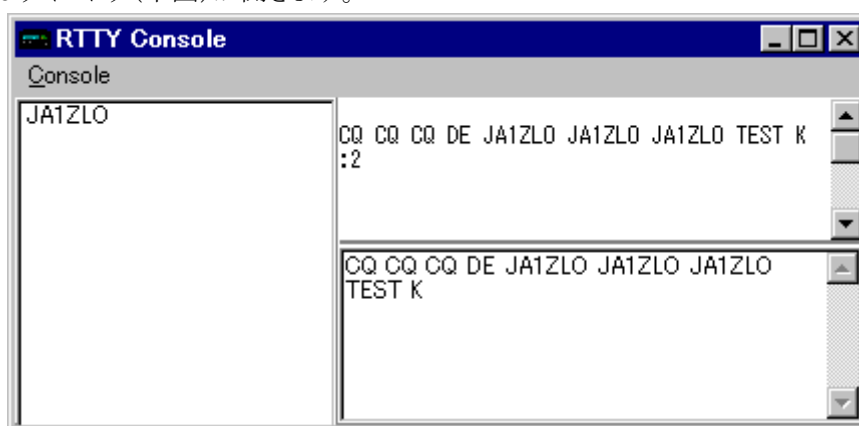
ボイスメモリ使用時にも PTT 出力のために DATA4 ピンの電圧を制御します。また¥もしくは「無変換」で手動制御も可能ですのでフットスイッチ代わりに利用できます。加えて、ボイスメモリの再生時には DATA2 ピンに High を出力します。また、USBIF4CW のマイク切り替え制御出力にも対応しています。

4.5 RTTY コントロール機能

zLog では、JE3HHT 森誠氏による RTTY ソフト MMTTY のリモート制御モードに対応しており、MMTTY の優れた RTTY 通信機能を **zLog** の操作感を崩すことなく使うことができます。

MMTTY の設定やリグとの接続などについては MMTTY のマニュアルを参照してください。MMTTY を **zLog** から使うためには、以下のようにします。

- MMTTY.EXE を ZLOG.EXE と同じディレクトリに置きます。
- 必要に応じて、Options|CW/RTTY の Message 欄で RTTY 用の送信メッセージを設定します。
- File|Load MMTTY で MMTTY の RTTY Control panel ウィンドウと **zLog** の RTTY Console ウィンドウ(下図)が開きます。



- **zLog** のモードを RTTY にして運用します。

このウィンドウの右下が送信文字列のログ、右上が受信文字列のログです。送信文字列は受信文字列のログにも表示されます。左側は、受信文字列ログで「DE」に続けて受信した文字列(つまりコールサインと思われる文字列)の一覧になります。ここの文字列をシングルクリックでメインウィンドウのコールサインフィールドに取り込みます。ダブルクリックすると取り込んだ上でメインウィンドウにフォーカスを移します。

RTTY 運用時には、CW と同様に F1～F8 で設定文字列を送信する、TAB で F2 の内容を送信してナンバーフィールドに移る、↓または+または;で QSO を確定して F3 の内容を送信の操作ができます。ただし Ctrl+Z または SHIFT+Z での連続 CQ はできません。また、「599」の後ろの受信文字列をコンテストナンバーとみなして自動的に入力フィールドに取り込みます。

Alt+W または「, T」コマンドでこの RTTY Console に移ります。送信文字列の欄で任意の文字列を打ち込んで送信することができます。ここでは MMTTY と同様に F9 で送受信がトグルするほか、F1～F8 も利用できます。メインウィンドウに戻るには ESC を押します。

4.6 リグコントロール機能

概要

zLog のリグコントロール機能で PC とリグとを接続すれば、バンドやモード、VFO の選択状態などが **zLog** とリグとの双方での操作に対して追従ようになります。したがって、SSB から CW に移った際などに **zLog** 側でモードを変更するのを忘れてしばらくオペレートしてしまった、などのミスがなくなります。それだけに留まらず、バンドスコープ機能が使えるようになったり、PacketCluster ウィンドウの目的の局をクリックするだけで周波数やモードが自動的にセットされるようになったりします。また、リグは同時に 2 台までコントロールでき、使用するリグの切り替えもスムーズに可能です。

準備と設定

まずは、PC のシリアルポートとリグとをケーブルで接続します。ケーブルの種類はリグによって異なりますのでリグのマニュアルや純正オプションなどがないかどうかチェックしてみてください。回路さえわかれば自作も可能です。

次は **zLog** 側の設定です。Options ウィンドウの Hardware ページの Rig 1 / Rig 2 をそれぞれ適切なリグの機種に設定し、PC 側に接続したシリアルポートも (COM1~COM6) 設定します。その右側の XVT は、リグにトランスバータがつながっているなどの理由でリグから送られてくる周波数情報が実際の運用周波数とはずれている場合にチェックします。するとずれを **zLog** が補正ようになります。

基本操作

Windows | Rig Control または Alt+T でリグコントロールウィンドウが表示されます。ここにはリグの各 VFO ごとの周波数と、VFO の選択状態が表示されます。ここで Reset Rig ボタンを押すとリグのコントロールを初期状態に戻しますので、何か動作がおかしい場合には押してみてください。「,RESET」コマンドも同じ働きをします。

SHIFT+B や SHIFT+M などでもバンドやモードを変更するとリグ側もそれに追従します。リグ側で操作しても **zLog** 側が追従します。モードが SSB の場合、リグ側の USB/LSB はバンドに応じて自動的に選択します。また、バンドを変更するには「,19」「,3」「,7」「,10」「,14」「,18」「,21」「,24」「,28」「,50」「,144」「,430」「,1200」「,2400」「,5600」「,10G」などのコマンドで直接指定することもできます。ほかにも、「,7010.3」のように周波数を直接指定することもコマンドとして有効です。「,L」または「,LQ」コマンドは、最後に確定した QSO のバンドとモードに変更します。

SHIFT+X、Alt+. または「, TR」コマンドで Rig 1、Rig 2 をトグルできます。もしくは、「, R1」および「, R2」コマンドでそれぞれ Rig 1、Rig 2 を直接選択することもできます。VFO のトグルは SHIFT+V または「, TV」コマンドで可能です。もしくは、「, VA」および「, VB」コマンドでそれぞれ VFO A、VFO B を直接選択することもできます。また、「, RC」コマンドでリグの RIT をクリアできます。RIT のクリアはオプションで毎回 QSO を確定するたびに自動的にクリアするようにもできます (Options の Rig control ページの Clear RIT after each QSO)。

リグコントロールに使うシリアルポートの通信速度をコマンドで変更できます。「, B300」「, B1200」「, B2400」「, B4800」「, B9600」のコマンドを受け付けます。通常は変更する必要はないはずですが、動作がおかしい場合には速度を落としてみてください。

バンドスコープウインドウ

Windows | Band Scope でバンドスコープウインドウを表示します。ここには、現在の周波数の位置を表示するほか、Ctrl+N (登録後に入力フィールドをクリアする) または Shift+Ctrl+N (登録後に入力フィールドをクリアしない) でコールサインフィールドに入力されている局とコンテストナンバーを登録できます。周波数はリグから読み込みますが、リグコントロールをしていない場合は周波数を入力するよう促されます。また、Packet Cluster のスポット情報も自動的に表示します。この他に、設定で Options|Rig Control|Automatically create band scope をチェックしておけば、QSO を確定するたびに自動的にその QSO をバンドマップに追加します。または、「, AUTOBANDSCOPE ON」「, AUTOBS ON」「, AUTOBANDSCOPE OFF」「, AUTOBS OFF」でも切り替え可能です。いずれもニューマルチを赤、未交信を緑、交信済みを黒で、また Packet Cluster のスポット情報はコールサインの後ろに「+」をつけて区別して表示します。

バンドスコープ上のコールサインをダブルクリックすると、リグの周波数を自動的に合わせ、コールサインフィールドにそのコールサインを取り込みます。そしてナンバーフィールドにフォーカスを移します。

バンドスコープ上のデータは一定時間後に自動的に削除します。その時間はオプションで変更可能です。手動でも、コールサインを右クリックして出てくるメニューから **Delete** を選べば削除できます。Delete all worked stations を選べば、QSO 済みの局をすべて一括削除できます。

バンドスコープの周波数の範囲は、右クリックのメニューで **Set min/max frequencies** を選べばバ

ンドとモードごとに設定できます。この設定は **zLog** の終了時までは記憶されています[†]。

ネットワーク機能(後述)を利用している場合、バンドスコープウインドウの内容は全 PC の間で共有されます。

仮想リグ

3 台以上のリグのコントロールは **zLog** では対応していません。しかし、3 台以上のリグと 1 台の PC でコンテストに参加する場合、そのうち 2 台でリグコントロール機能を利用すると、それ以外のリグで運用する際にそれらリグコントロール機能を利用しているリグの状態も影響を受けてしまいます。たとえば、**zLog** で **Rig 1** を選択しているときに 3 台目のリグで別のバンドを運用したいとします。しかしここで普通にバンドを変更すると、**Rig 1** のバンドも変更されてしまいます。

これを防ぐために、**zLog** では仮想リグ機能を備えています。仮想リグとは、他のリグと同様にコールサインフィールドの内容、バンド、モードを記憶していますが、実際にはリグのコントロールはしない点だけが異なります。この機能を利用するためには、「,MAXRIG?»コマンド(？は 2 から 9)を使い、使いたいリグの台数を指定します。すると、3 以上のリグは仮想リグとして扱います。切り替えは SHIFT+X や「,R1」「,R2」「,R3」などのコマンドで普通のリグと同じように可能です。

リグ識別・バンドデータ出力

CW キーイングポートがパラレルポートに設定されている場合、設定したポートに以下の情報が出力されます。

ポート(1 から数えて)	出力内容
DATA3	Rig1/Rig2 選択状態
DATA5-DATA8	現在のバンドを出力。バンドと出力データの対応は ZLOG.INI で直接設定。

4.7 ネットワーク機能

概要

マルチオペ部門に **zLog** で参加する場合、複数の **zLog** をネットワークで接続しリアルタイムに様々な情報を交換することができます。他のバンドの交信状況を見られるだけでなく、他のバンドのロ

[†] 起動時の初期値を設定するには、ZLOG.INI の [BandScope] セクションを直接編集してください。

グに対してパーシャルチェックをかけたり、バンド間でチャットを使って情報交換をしたりすることができます。zLogのネットワーク機能を使うには、TCP/IP ネットワークにつながっている1台のPC上でZ-ServerというzLog通信サーバプログラムを動かす、そのサーバに複数のPCからzLogを接続します。

ネットワーク接続の準備

10BaseTなどのケーブルで直接LANを張るか、電話線を通じてインターネット経由でIP接続することができればzLogのネットワークを構築することができます。通信は、Z-Serverというサーバソフトを介して行いますが、たとえ2TXやM/Sで参加する場合でも最低2台のPCがあれば十分です(Z-Serverは1台のPC上にzLogと一緒に動かすことができるため[‡])。

まず、zLog自体の設定の前に、Windowsのネットワークが正常に設定されている必要があります。接続するすべてのPCの間でTCP/IPで通信できることをpingコマンドなどで確認してください。実際の設定方法はそれぞれのPCのマニュアル等を見てください。

次にzLogの設定に移ります。OptionsウインドウのHardwareページを開き、Z-LinkドロップダウンメニューからTELNETを選んでください。そして右のTELNET settingsボタンを押してTELNET設定を行います。基本的にHost name欄にZ-Serverのが動いているホスト名もしくはIPアドレス(同一PC上であればlocalhost)を入力するだけでよいはずですが。

最後に、サーバにするPC上でZ-Server(ZSERVER.EXE)を起動します。Z-Serverの起動時にコンテストを選択する必要がありますが、これはZ-Serverでの得点表示のために使うものです。そのため、対応していないコンテストの場合でもzLogの機能自体には支障はありませんので、その場合は適当なコンテストを選んでおいてください。

ネットワーク接続を使う

Z-Serverに接続するにはメインメニューのNetwork|Connect to Z-Serverを選びます。接続に成功するとダイアログボックスが表示されるので、どちらかを選んでOKを押します。このダイアログボックスの選択の意味は次のとおりです。

Merge local log with Z-Server	ローカルのPCのログと、Z-Serverでつながったネット
-------------------------------	-------------------------------

[‡] データの保全の観点から可能であれば専用サーバマシン上でZ-Serverを動かすことをお勧めします。

(ローカル PC にログがある場合のデフォルト)	ワーク上のログをマージします。 これは「ローカル PC がない QSO をネットワークからダウンロード」および「ネットワークがない QSO をローカル PC からアップロード」することでマージしますので、既存 QSO が削除されることはありません。したがって、再接続時だけでなく、初回の接続時に選択しても安全です。
Download log from Z-Server (Erase local log) (ローカル PC のログが空の場合のデフォルト)	ローカルの PC のログを完全に消去して、ネットワークからログをダウンロードします。初回の接続時以外は絶対に必要な場合でない限り、このオプションを選ぶべきではありません。

接続されるとツールバー上にアイコンが表示されます。また、接続後にネットワークから何らかの理由で切断された場合、警告ダイアログが表示されます。

ネットワークに接続された状態では、各 PC の **zLog** はローカル PC での QSO だけでなく、他の全ての QSO データを保持しています。したがって、全 PC 間でログデータは共通になります。ただしログウインドウへの表示については、「現在のバンドだけ表示」と「全てのバンドを表示」との間で切り替えられます (View | Show Current Band Only で設定、または Ctrl+L で切り替え)。修正や削除についても、表示されている QSO ならば (どの PC で QSO したのかなどに関係なく) 全てが可能ですし、そのような変更はネットワーク上の他の **zLog** にも即座に反映されます。

このように全ての PC での QSO データが共有されますので、パーシャルチェックや得点データとしてアクセスすることができます。

なお、ネットワーク上でシリアルナンバーを共有するには、各 PC で「, SYNC SERIAL」コマンドを入力します。共有を解除するには「, SYNC SERIAL OFF」コマンドです。これで全 PC においてシリアルナンバーが共有されます。ただし WPX コンテストの M/S 部門の場合に限り、Run station / Multi station のシリアルナンバーがそれぞれ独立に共有されます。

チャット機能

チャット機能を使用するためには Alt+z、またはメインメニューから Windows | Z-Server Messages を選んでチャットウインドウを開いてください。ウインドウ下部の行エディタに入力して Enter を押すと送信されます。Z-Server からも接続されている全バンドにチャットでメッセージを送信できます。Z-Server からのメッセージはメインウインドウのステータスバーにも表示されます。

¥WHO 現在 Z-Server に接続されているバンドおよびオペレーター一覧が表示されます。

Running Frequencies ウィンドウ

Windows | Running Frequencies で Running Frequencies ウィンドウが開きます。これは、Z-Server につながっている他の **zLog** の周波数とモード、**CQ** と呼び回りの区別の一覧を表示するものです。リグコントロールを行ってれば、自分の周波数情報を **Options** で設定した一定周期ごとに自動的に送信するほか、「, SF」コマンドで周波数情報をすぐに送信します。

また、実際にリグが接続されているかどうかに関わらず、「, 7030」などの周波数直接指定コマンドの実行直後にも送信します[†]。そのため、このコマンドを使えばたとえリグコントロールをしていなくても他の **zLog** に自分の周波数とモードの情報を流すことができます。

CQ と呼び回りの区別はそれぞれ「, CQ」および「, SP」コマンドで切り替えられます。現在の状態は「, CQ?」コマンドでステータスバーに表示します。また、Ctrl+Z や SHIFT+Z など **CQ** を出すと自動的に **CQ** モードに切り替わります。

なお、このウィンドウには **zLog** に設定されている PCNAME 別に表示します。ただし、デフォルトでは PCNAME は "PC"+送信機番号(PC0, PC1 など) になっていますので、送信機番号が同じに設定されている(もしくは送信機番号を何も設定していない) **zLog** が複数ネットワークに接続されると、そのうちの 1 つしか表示されません。これを回避するためには PCNAME を手動でセットしてください。それには「, PCNAME」コマンドを使います(例: , PCNAME/CQPC …PCNAME を "CQPC" に設定)。設定内容は **zLog** の終了時に自動的に保存されます。また、PCNAME を各々別のものに設定しても、同一のバンドが複数あるとどれか 1 つしか表示しません。ただし M/S に限り Run Station と Multi Station との間では同じバンドでも別々に表示します。

必要マルチ通知機能

ネットワークを通じて、運用中のバンドで必要なマルチをアナウンスすることができます。「, WANTED[マルチ]」コマンドを使うと、指定したマルチが運用中のバンドで必要である、ということをお他の PC に通知します。各 PC では、通知されたマルチの局との QSO を入力して確定しようとする、そのマルチを必要としているバンドをダイアログで表示し、注意を喚起します。アナウンスを取り消すには「, DELWANTED[マルチ]」コマンドを入力します。

[†] ただし、**Options** でリグコントロールを有効にしていなければなりません。すなわち、たとえリグを接続していても COM ポートを選択し、適当にリグの種類を選択しておく必要があります。

M/S もしくは 2TX の場合の特記事項

M/S もしくは 2TX 部門でコンテストに参加する場合でも、2 台より多くの PC を接続できます。2TX で参加するには部門としては **Multi-Op** を選択しておきます。CQWW 方式のような M/S の場合には部門は **M-op/S-Tx** を選択してください。

2TX 部門では各 PC に送信機番号を設定しておきます。これは起動時のダイアログボックスで設定するか、入力フィールドまたはコマンドウィンドウで「, TXNR2」のようにコマンドを入力することで即座に変更できます。単に「, TXNR」とコマンド入力すると現在の送信機番号をステータスバーに表示します。複数の PC が同一の送信機番号になっていても動作に支障はありません。

M/S の場合、各 PC の **Run Station / Multi Station** の区別があり、これが 2TX における送信機番号の区別に相当するものとなっています。この区別は **zLog** のウインドウ上部のタイトルバーに表示されます。また、切り替えは **Options** ウィンドウの **Categories | Multi station** チェックボックスによるもののほか、入力フィールドまたはコマンドウィンドウにおける「, RUN」および「, MULTI」「, MULT」「, MUL」コマンドでもできます。**Multi Station** の設定になっている場合、ニューマルチ以外の局を入力しようすると警告が表示されます。警告が不要な場合は、「, MULTWARNOFF」「, MULTWOFF」「, MWOFF」のいずれかで、警告を出さないようにすることができます[†]。「, MULTWARN」で再び警告が出るようになります。こちらも、**Run Station / Multi Station** が複数あっても構いません。

送信機番号はログのメモ欄に残ります。M/S の場合は **Running Station** を **R**、**Multi Station** を **M** と記録します。入力済みの **QSO** を右クリックすると、送信機番号を修正することができます。

なお、複数の PC が同じ送信機番号に設定されている場合、いわゆる「10 分間ルール」のためのタイマーや **QSY** 回数のカウンタは送信機番号ごとに同期して動きます。

4.8 PacketCluster™ 接続機能

zLog は DX コンテストにおいて **PacketCluster** のスポット情報を送受信する機能を備えています。**TNC** を使ってパケット通信でノードに接続するだけでなくインターネット上の **TELNET** サーバーにも対応しています。まず **Options** ウィンドウの **Hardware** ページで **PacketCluster port** を設定し、**Windows | PacketCluster** または **Alt+P** でパケットクラスタウインドウを表示させます。パケ

[†]zLOG.INI で **MultiStationWarning=0** と書き換えることによって、デフォルトで警告を出さないようにもできます。

ットクラスタサーバーに接続し(パケットの場合はターミナルから手動で接続、TELNET サーバーの場合は Connect ボタンを押す)後はスポット情報を待つだけです。パケットクラスタサーバーに接続していない状態でも、モニター中に流れてくるスポット情報を拾うことができます。このとき、QRV 可能なバンド以外のスポット情報は受信しても無視します。

スポット情報を受信すると、ステータスバーに赤で情報を表示するとともに、パケットクラスタウインドウに右の表のような色分けで表示します。スポット情報をダブルクリック

種類	色
未交信マルチの局	赤
未交信局	緑
交信済み局	黒

するとコールサインフィールドにコールサインを取り込みます。もしリグコントロールをしているならば周波数も合わせます。リグコントロールをしていなくても **zLog** のバンドを該当バンドに変更します。スポット情報を削除するには DELETE キーを押します。また、スポット情報を取り込む直前の周波数に戻りたいときには「, LF」または「, LASTF」コマンドを使います。

スポット情報を送信したい場合は、確定済みの QSO を右クリックし、ポップアップメニューから Send Spot を選択します。そうすると、周波数およびコメントを入力するダイアログが表示されますので入力が済んだら Send ボタンを押してください。

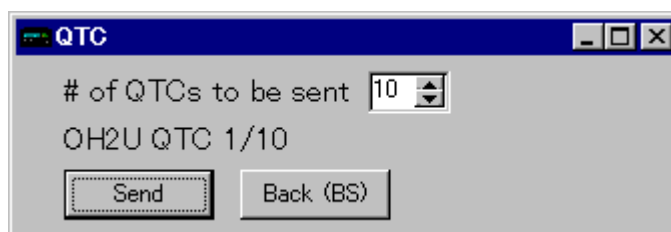
TNC や TELNET コンソールをリモートから操作することもできます。PacketCluster port の設定が None になっていて、かつ Z-Server に接続している状態ならば、パケットクラスタウインドウでの入力文字列は Z-Server 経由で他の PC に送られて、PacketCluster に接続している PC から送信されます。

逆に、1 台のクライアントだけで PacketCluster に接続しておいて、スポット情報を Z-Server 経由で他のクライアントに転送することもできます。そのためには、PacketCluster ウインドウの Relay spot to other bands にチェックを入れてください。このとき、PacketCluster に接続しているクライアントで QRV 可能なバンドしか転送しません。**zLog** 起動時にシングルバンドの設定になっていないか、あるいは Options | Preferences で Active bands の設定が一部だけになっていないか特に注意してください。

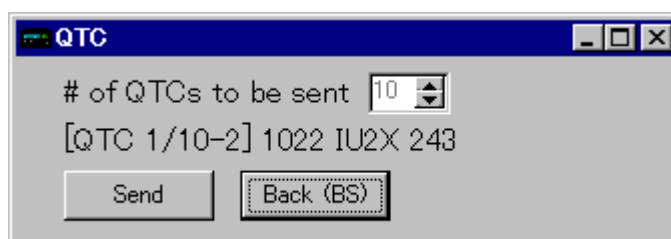
4.9 WAEDC モードでの QTC 送信

zLog の WAEDC モードでは QTC に対応しています。QTC を送信するには Ctrl+Q を押します。すると、現在コールサインフィールドに入っている局に対して QTC を送信するために以下のようなウインドウが開きます。コールサインフィールドが空の場合は、最後に確定した局に対して QTC を送信するものとみなします。

このウインドウで送信する QTC の数を決めます。よければ Send ボタンを押すか、F を押すと (CW モードならば表示内容を送信して) 1 通目の QTC 表示に移ります。



QTC 表示の内容は右のようになります。[QTC 1/10-2]は、1 回目の QTC 送信で 10 通の QTC を送り、そのうちの 2 通目であることを示しています。Send ボタン、または F キーを押すと (CW モードならばこの QTC を送信して) 次の QTC 表示に移ります。Back ボタン、B キー、または BS キーで 1 つ前の QTC の表示に戻ります。



送信した QTC は、ログのメモ欄に記録されます。ただし、今のところ QTC の記録だけを独立したファイルに書き出す機能はありません。

4.10 その他の機能

zLog には呼びに回っているときなどに便利な QSO データの一時保存機能があります。Ctrl+U で現在の入力フィールド内の内容を一時的メモリに保存します。この内容は Ctrl+G で入力フィールドに呼び出すことができます。メモリの最大保存数は 5 つまでです。

スクラッチシート機能 (メモ帳) は自由なメモ内容を書いておけるものです。Windows | Scratch Sheet もしくは Alt+S で表示されます。内容は Z-Server を介したネットワークで共有できます。

WW などではコンテスト中に新しいプリフィックスをその場で定義できます。コールサインフィールドで @ キーを押すか、入力済み QSO の右クリックメニューで Add new prefix を選びます。すると、新プリフィックス入力ウインドウが表示されます。入力して OK ボタンを押すと、そのプリフィックスが DAT ファイルに追加されます。もし Z-Server に接続しているならば Z-Server 経由で他の **zLog** にも情報が伝わります。

メニューの Help | Quick Reference または 「, H」「, HELP」コマンドで ZLOGHELP.TXT の内容が表示されます。操作のクイックリファレンスやコンテスト周波数などをメモしておくのにご利用ください。

5 よくある質問など(FAQ)

Q. *zLog* のデータを Turbo HAMLOG (JG1MOU 作)にコンバートしたいのですが。

A. ZLIST for Windows もしくは ztohconv (JH0IXE 作)で変換できます。後者は <http://aimiya.com/ham/ztohconv.html>から入手できるようです。

Q. *zLog* のデータから QSL カードを印刷するにはどうしたらよいでしょうか？

A. いったん Turbo HAMLOG にコンバートすると同ソフトやその他の QSL 印刷ソフトでデータを読み込めます。また MMQSL (JE3HHT 作)に *zLog* 用の MMUSER.DLL (7L3CQP 作)を組み合わせて使用すれば .ZLO ファイルを直接読み込めるのでお勧めです。MMQSL は <http://plaza27.mbn.or.jp/~je3hht/index.html>から入手できるようです。

Q. *zLog* を起動すると CW の短点が鳴りっぱなしになる。

A. Options ウィンドウの Hardware ページで Paddle enabled チェックボックスをオフにしてください。

Q. *zLog* を起動すると内蔵時計が遅れる。

A. 何件か報告を受けていますが、確定的な原因はまだ不明です。タスクトレイ常駐ソフト、パソコンの省電力設定などを見直してみてください。なおこの件に関して何か参考になる情報がありましたらぜひお寄せください。

Q. 全市全郡モードや 6Dモード、User Defined Contest などで起動したら正しいナンバーを入力しているのに invalid number と言われてしまいます。

A. ZLOG.EXE があるのと同じフォルダに ACAG.DAT, XPO.DAT はありますか？ *zLog* では県や市郡区のナンバーを ACAG.DAT や XPO.DAT から、読み込んでいます。もし同じフォルダになかったら置いてください。

Q. CW 送信ができません。

A1. モードが SSB や FM になっていませんか？ CW モードでないと CW 送信はしません。

A2. サイドトーンが出ないという場合はサイドトーンがオンになっているか確かめてください。ツー

ルバーのスピーカーのマークが描いてあるボタンが押された状態がオンです。

A3. リグに信号が行っていない場合には、インターフェースが正常か、パソコンから信号が出ているかなどを確かめてください。

Q. *zLog* の *cfg* ファイルって何？

A. コンテストによっていろいろとルールが異なり、また時々変わることもあるので、すべてのコンテストに *zLog* 本体で対応することはできません。そこで、それぞれのルールに合わせた設定ファイルを別に用意して *zLog* 起動のときに読み込むようになっています。???.*cfg* というファイルに得点計算などのデータが、???.*dat* にマルチの一覧表が収められています。これらの *cfg* ファイルを使ってコンテストに参加するときには *zLog* 本体と同じフォルダに???.*cfg* と???.*dat* の 2 つのファイルを置いた上で **user defined contest** で該当する *cfg* ファイルを選んでください。一般にこれらのファイルは *dat_cfgw.lzh* に収められています。

また、これらの設定ファイルを使用する場合でも *ACAG.DAT* は *zLog* と同じフォルダに置いたままにしてください。

Q. 参加したいコンテスト用の *cfg* ファイルが見つかりません。

A. *zLog* ではできるだけ多くのコンテストに対応しようとしていますが、すべてのコンテストに対応できているわけではありません。要望があればこちらで作成することもあります。ただし、ルールによっては対応できない場合もあります。この様な場合は **Pediton** モードでとりあえずログをつけて、あとから得点などを計算することもできます。

DOS 版で対応できるコンテストの一部には Windows 版で対応できないものもあります。

なお、最新版の *cfg*、*dat* ファイルはこちらにあります：

<http://www.alles.or.jp/~tsk2/zlo/index.html>

6 キー操作クイックリファレンス

ロギングに関するキー操作

SHIFT+B	バンド変更
SHIFT+M	モード変更
SHIFT+R	了解度(R)変更
SHIFT+S	信号強度(S)変更
SHIFT+P	パワーコード変更
Alt+O	オペレータ変更

入力と編集に関するキー操作

Alt+C	コールサインフィールドに移動
Alt+N	ナンバーフィールドに移動
Alt+M	メモフィールドに移動
Alt+R	RST フィールドに移動
Ctrl+A	フィールドの先頭に移動
Ctrl+E	フィールドの最後に移動
Ctrl+B	カーソルを 1 文字左に移動
Ctrl+F	カーソルを 1 文字右に移動
Ctrl+D	カーソル位置の 1 文字を削除
Ctrl+H	カーソルの左の 1 文字を削除
Ctrl+J	カーソルより右の文字列を削除
Ctrl+W	カーソル位置のフィールドの内容をすべて削除
Ctrl+K	コールサインフィールドとナンバーフィールドの内容をすべて削除
Ctrl+U	全ての入力フィールドの内容を一時メモリに保存(最大 5 つ)
Ctrl+G	一時メモリの内容を入力フィールドに呼び出し
Enter	QSO 確定、またはコマンド入力確定
SHIFT+Enter	無効ナンバーやデュープ局の強制確定

入力済み QSO の修正に関するキー操作

↑	入力済みのログウインドウに移る
↑または-または Ctrl+P	1 つ上の QSO に移動
↓または+または Ctrl+N	1 つ下の QSO に移動
Home	ログの先頭に移動
End	ログの末尾に移動
Enter	現在行の QSO を修正する
Delete	現在行の QSO を削除する
Insert	現在行に QSO を挿入する
ESC	コールサインフィールドに戻る

CW キーイングとボイスメモリに関するキー操作

Ctrl+Z	連続 CQ (F1 の内容の連続送信)、何か入力すると送信解除
SHIFT+Z	連続 CQ、ESC を押さないと送信解除しない

TAB	相手のコールサインとナンバーを送信し(F2)ナンバーフィールドに移動、ただしデュープならば QSO B4 を送信(F4)
↓または+または;	TU と自局のコールサインを送信し(F3)QSO を確定、ただしナンバーが有効でない場合は NR?を送信(F5)
SHIFT+Y	QRQ
SHIFT+U	QRS
Ctrl+R	パドル入力の長点と短点の反転
F1～F8	メモリ内容の送信
SHIFT+F1～F8	裏バンクのメモリ内容の送信
SHIFT+F	送信メモリバンク A/B 切り替え
Ctrl+T	連続キャリア送信
ESC	送信中断
Alt+K	キーボードモード

リグコントロールに関するキー操作

Alt+T	リグコントロールウインドウの表示
SHIFT+X または Alt+.	リグの切り替え
SHIFT+V	VFO のトグル
Ctrl+N	バンドスコープへの手動登録
Shift+Ctrl+N	バンドスコープへの手動登録(登録後に入力フィールドをクリアしない)

各種ウインドウや情報表示に関するキー操作

F10	パーシャルチェックウインドウの表示
Alt+E または Ctrl+F10	スーパーチェックウインドウの表示
Ctrl+I	パーシャルチェックまたはスーパーチェックの検索結果取り込み
F9	マルチチェックをステータスバーに表示
Alt+P	パケットクラスタウインドウの表示
Alt+Z	Z-Server 経由のチャットウインドウの表示
Alt+Q	コマンド入力ウインドウの表示
Alt+S	スクラッチシートの表示

ポストコンテストモード用のキー操作

Ctrl+O	時刻フィールドを 1 分戻す
Ctrl+P	時刻フィールドを 1 分進める
SHIFT+T	時刻フィールドを現在時刻にセットする

その他のキー操作

Ctrl+S	表示フォントサイズの変更
@	新しいプリフィックスの登録
¥または無変換	PTT 制御出力の手動トグル
Ctrl+Q	QTC 送信 (WAEDC モード)
Alt+B	設定したパスに外部バックアップ

7 文字列コマンドクイックリファレンス

CW キーイングに関するコマンド

,CWOFF	CW キーイング機能の無効化
,CWON	CW キーイング機能の有効化
,TUNE	連続キャリア送信 (ESC で解除)

リグコントロールに関するコマンド

,B300 ,B1200 ,B2400 ,B4800 ,B9600	シリアルポートボーレートの変更
,RESET	リグコントロール状態のリセット
,VA ,VB	VFO A を選択/VFO B を選択
,TV	VFO A/B のトグル
,RC	RIT クリア
,MAXRIGn	リグを <i>n</i> 台に設定 (3 台目以上は仮想リグ)
,Rn	リグ <i>n</i> 番を選択
,TR	リグ 1/2 のトグル
,19 ,3 ,7 ,10 ,14 ,21 ,24 ,28 ,50 ,144 ,430 ,1200 ,2400 ,5600 ,10G	リグと zLog のバンドとを指定のものに切り替え
,freq	リグの周波数を <i>freq</i> に変更し zLog のバンドをそのバンドに切り替え、もし接続されていれば周波数を Z-Server に送信
,LF ,LASTF	PacketCluster のスポット情報を取り込んで QSY したあとで、取り込み前の周波数に戻る
,L ,LQ	最後に確定した QSO の周波数とモードに戻る
,AUTOBANDSCOPE ON ,AUTOBS ON	QSO 確定時にその QSO を自動的に BandScope に取り込む
,AUTOBANDSCOPE OFF ,AUTOBS OFF	上記の動作を抑制する

ネットワークに関するコマンド

,CQ	現在 CQ を出していることを Z-Server に送信
,SP	現在呼び回り中であることを Z-Server に送信
,CQ?	現在 CQ/呼びまわりのどちらなのかを表示
,SF	リグの周波数を読み取って Z-Server に送信
,RUN	RUN ステーションに変更 (M/S モード)
,MULTI ,MULT ,MUL	MULTI ステーションに変更 (M/S モード)
,MULTWARNOFF ,MULTWOFF ,MWOFF	MULTI ステーションで、ニューマルチ以外の局との QSO に対する警告を出さない
,MULTWARN	MULTI ステーションで、ニューマルチ以外の局との QSO に対して警告する
,TXNRn	送信機番号を <i>n</i> 番に設定
,TXNR	送信機番号の設定値を表示
,PCNAME/ <i>name</i>	PCNAME を <i>name</i> に設定
,PCNAME	PCNAME の設定値を表示
,WANTED <i>multi</i>	指定した <i>multi</i> を必要としていることを他の PC に伝える

,DELWANTED <i>multi</i>	指定した <i>multi</i> を必要としている、という情報の登録を解除する
,SYNCSERIAL	シリアルナンバーを Z-Server 経由で同期する
,SYNCSERIALOFF	シリアルナンバーの同期を解除

その他のコマンド

,MMTTY	MMTTY 起動
,T	RTTY Console ウィンドウに移動
,HEIGHT <i>nn</i>	ログウィンドウの高さを <i>nn</i> に変更(<i>nn</i> =18~40)

8 おわりに

8.1 配布条件など

zLog for Windows は私、横林洋平 (AD6AJ) が著作権を主張するソフトウェアです。ZPRINT、ZLIST 等関連ユーティリティについてはそれぞれの作者が同様に著作権を保有します。

zLog for Windows もしくは関連ソフトを利用した結果によるいかなる損害に対しても作者等は責任を負いません。

zLog for Windows 0.xx~2.xx はフリーウェアです。作者の許可無く、金額の如何に関わらず、配布に関して金銭の授受は認められません。金銭の授受がない限り自由に複製、配布していただいて構いません。配布に当たってはオリジナルのアーカイブに変更を加えずに配布してください。ZPRINT および ZLIST が *zLog* 本体と一緒にアーカイブされていない場合はそれらのアーカイブも一緒に配布してください。個人的に配布、ホームページや BBS に転載する場合は特に作者の許可を取る必要はありませんができるだけ最新版を転載するようお願いいたします。雑誌等への掲載もしくはソフトウェア添付に関しては事前にご連絡願います。

8.2 サポート

zLog のサポートは以下の方法で行います。

WWW ホームページ

<http://www.zlog.org/> *zLog* 総合リンクです。書き込み可能な掲示板もあります。

E-mail

zlog@zlog.org

8.3 謝辞

このソフトウェアを制作するにあたり多くのユーザーの方からご意見、バグ情報、ご要望等をいただきました。最初に述べましたように *zLog* の開発においてユーザーの方のフィードバックは非常に大きなウエイトを占めています。お礼申し上げます。

DOS 版時代から各種ユーティリティ、CFG/DAT ファイル、マニュアルの作成・保守をしてきていた JN2MRJ 間野裕一、JE2NHH 加藤陽一、7L1ETP 大曾根淳太、7N3PZJ 坂間毅、7L3CQP

zlog for Windows User's Manual 2003

小川貴也、JG5CBR 中茂睦裕各氏を始めとする東京大学アマチュア無線クラブ (JA1YWX / JA1ZLO) 部員および OB には特に謝意を表するとともに今後とも **zLog** の発展に協力していただけることを望むばかりです。

AD6AJ/JJ1MED 横林

2003 年夏 パサディナにて

目次 *Table of Contents*

1	はじめに.....	1
1.1	zLogとは何か.....	1
1.2	zLogの特長.....	1
2	インストールおよび動作環境.....	3
2.1	Windows95ユーザー向けの注意事項.....	3
2.2	Windows98/Meユーザー向けの注意事項.....	4
2.3	WindowsNT/2000/XPユーザー向けの注意事項.....	4
3	基本的な使い方.....	5
3.1	起動.....	5
3.2	メニュー.....	5
3.3	ファイルを開く.....	6
3.4	メインウインドウ(入力ウインドウ).....	7
3.5	オプションウインドウ.....	8
3.6	QSO入力.....	9
3.7	既入力QSOの編集.....	10
3.8	既入力QSOの削除および新規挿入.....	11
3.9	パーシャルチェック.....	11
3.10	スコアおよびマルチウインドウ.....	12
3.11	その他のウインドウ.....	12
3.12	提出書類の作成.....	13
3.13	終了.....	14
4	応用編—zLogを使いこなすために—.....	15
4.1	操作体系.....	15
4.2	オプション設定.....	15
4.3	CWキーイング機能.....	19
	設定.....	19
	CWインターフェース回路.....	19
	メモリ機能.....	20
	CW符号の設定.....	23

CWキーボードモード.....	24
CWに関するその他の機能.....	24
4.4 ボイスメモリ機能.....	24
4.5 RTTYコントロール機能.....	24
4.6 リグコントロール機能.....	26
概要.....	26
準備と設定.....	26
基本操作.....	26
バンドスコープウインドウ.....	27
仮想リグ.....	28
リグ識別・バンドデータ出力.....	28
4.7 ネットワーク機能.....	28
概要.....	28
ネットワーク接続の準備.....	29
ネットワーク接続を使う.....	29
M/Sもしくは2TXの場合の特記事項.....	32
4.8 PacketCluster™接続機能.....	32
4.9 WAEDCモードでのQTC送信.....	33
4.10 その他の機能.....	34
5 よくある質問など(FAQ).....	35
6 キー操作クイックリファレンス.....	37
7 文字列コマンドクイックリファレンス.....	39
8 おわりに.....	41
8.1 配布条件など.....	41
8.2 サポート.....	41
8.3 謝辞.....	41